2019 年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

田中　伊佐生

１．事業実施の目的

北部土家語の一変種を記述するための基礎調査

２．実施場所

中国湖南省湘西土家族苗族自治州龍山県

３．実施期日

2019 年 9 月 11 日（水）～ 2019 年 9 月 18 日（水）

４．成果報告

●事業の概要

中国湖南省湘西土家族苗族自治州龍山県の山間部農村において、北部土家語の一変種を記述するための基礎調査として、語りの記録を行った。前回の調査では語彙 471 語を収集した。これらを分析したことによって、この土家語変種の音韻体系把握に一定の目途が立った。したがって、前回に引き続いての語彙収集という当初の予定を変更し、今回は語りを記録することとした。調査の目的は、語りを記録することによって、発話文脈における音韻的特徴のみならず、形態論的および統語論的な分析に資するデータの収集を行うことである。調査の進め方については、下地（2010：26-28）を参考にした。以下に、その調査の概要を述べる。

1. 調査対象者と媒介言語

今回も、前回の語彙調査に協力してもらった 60 代の話者から聞き取りを行った。聞き取りにあたっては、中国で標準的な言語として普及が進められている普通話を媒介言語とした。なお、1956 年 2 月に中国の国務院から公布された「普通話普及についての指示」において、この普通話とは、「北京語の音を標準音、北方話を基礎方言、模範的な現代白話文の著作を文法の規範とする」（中華人民共和国教育部 2006）ものとされている。

2. 調査方法

調査の前日、話者と面会し、今回調査の内容、意図、進め方を説明するとともに、語りの内容については、民間伝承、話者自身の若い頃の話、農作業の方法などの中から、語りやすいものを選定してもらうよう依頼した。実際の調査では、1 話の民間伝承（通しで約 7 分半）を記録した。まず、話者に対象とする土家語変種で最初から最後まで通しで語ってもらった後に、その内容を普通話に訳してもらい、これら全てを録音した。その後、土家語変種による語りの録音を話者と一緒に聞き、発音および意味、文や句の構造などについて話者に確認を取りながら、以下に示す①から⑤の流れで書き起こしを行った。

① 土家語変種を文単位で書き起こす。
② ①で書き起こした土家語に文単位で普通話の訳を付ける。
③ ①の文に含まれる語について、一語ずつ普通話の訳を付ける。
④ 品詞や構造などの面で気付いたことを書き加える。
⑤ ①から④の作業を一文ずつ繰り返し、全ての内容を書き起こす。

この書き起こし作業の過程で、語りの録音を聞いた話者から語り直しを求められる箇所がいくつかあった。その場合には、話者の意思を尊重し、修正箇所を含む文の単位で語り直してもらい、その修正文を書き起こすようにした。

参考文献

下地理則
2010 「フィールドワークに出かけよう！　－琉球諸語のフィールド言語学－」『日本語学』29(12): 16-30, 東京：明治書院。
中華人民共和国教育部
2006 「国務院普通話普及についての指示（1956 年）」（中华人民共和国教育部 2006 「国务院关于推广普通话的指示（1956 年）」）。
http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/xw_fbh/moe_2128/moe_2326/moe_1144/tnull_14344.html
（閲覧日：2019 年 10 月 14 日）

●本事業の実施によって得られた成果

今回の調査で得られた成果について、データ活用による可能性と調査中に得た仮説を述べ、最後に参考として語りのあらすじを紹介する。

1. データ活用による可能性

語りの記録から得たデータを活用し、発話文脈における音韻的特徴の分析を行うことによって、より正確に音韻体系を把握することが可能となる。併せて、今回の調査で得たデータを分析することによって、形態論的および統語論的な視点からも、対象とする土家語変種の構造理解を進めることが可能となる。

2. 調査中に得た仮説

今後は、音韻的、形態論的および統語論的な側面から包括的にデータの分析を行うが、文法構造に関しては、データ収集の過程でいくつかの仮説を得たので以下に例示する。

基本語順は、例 1 のとおり「主語－目的語－述語動詞」の SOV 型である。

例 1. 基本語順の例

go´ ɕi ¯pʰa` za´「彼女は服を洗う。」

go´（「彼女」） ɕi ¯pʰa`（「服」） za´（「洗う」）

主語（S） 目的語（O） 述語動詞（V）

※本稿では、国際音声記号に準拠して土家語変種を表記する。また、この土家語変種は声調言語であり、調値については、音節末尾に「 ¯ 」（高平ら）、「 ´ 」（昇り）、「 ˇ 」（降り昇り）、「 ` 」（降り）、「 · 」（声調なし）のいずれかの符号を付ける。

動作の完了を表す形式としては、例 2 のように動詞の後に助詞が付加されるものと、例 3 のように動詞の語形が変化するものがある。

・動作の完了を表す形式

例 2. ga´ le·「食べた」

ga´（「食べる」） le·

動詞 助詞（動作の完了を示す）

例 3. ɕiao´「持った」

ɕie´（「持つ」） ɕiao´（「持った」）

基体 完了形

基数詞単独では物の数を表すことができず、必ず基数詞の後に助数詞が結び付けられる。この「基数詞＋助数詞」が名詞を修飾する場合は、例 4 のとおり「名詞＋基数詞＋助数詞」の語順となる。

例 4.「基数詞＋助数詞」が名詞を修飾する例

ɤ´la¯ nie¯ tsɨ¯「2 本のツヅラフジ」

ɤ´la¯（「ツヅラフジ」） nie¯（「2」） tsɨ¯

名詞 基数詞 助数詞（細長いもの数えるのに使用）

これらの仮説は、限られたデータから導き出したものに過ぎず、対象とする土家語変種の構造把握のためには、今後さらなるデータ収集と分析が必要となる。

3. 語りのあらすじ

最後に、参考までに今回の調査で記録した語りのあらすじを記す。

「昔、働き者で舅と姑にも孝を尽くす土家族の女性がいた。ある日、彼女は薪を取りに山に入った。集めた薪を縛って帰ろうとしたところ、不覚にも鉈を穴に落としてしまった。その穴はとても深く、かつ、その中は暗かったため、彼女は鉈を見つけることができず、やむなく薪だけを背負って帰宅した。鉈を無くしたことを知った舅と姑は彼女を折檻し、鉈を見つけ出すまで帰っ

て来るなと、再び彼女を山に行かせた。彼女は鉈を落とした穴に下りて行ったが、鉈は見つからず、彼女自身もその深い穴から出られなくなった。絶望した彼女は自ら命を絶った。すると彼女は鳥に生まれ変わった。鳥になった彼女は、空を飛んで家の裏の大木までたどり着き、その大木の枝に止まり事の顛末を鳴き叫んで訴えた。それを聞いた舅と姑は、自らが犯した過ちに気付き深く後悔した。」

●本事業について

　本事業を活用することによって、博士課程の研究に必要なデータを収集することができており、非常に感謝している。今後も、計画的に研究活動を進めるためには、本事業は必要不可欠のものであると実感しており、この制度が継続されることを切に希望する。